

取組例Ⅰ 拡大学校運営協議会

教員、保護者や地域の方など学校運営協議会委員以外の方々も参加し、意見交換を行う。

〈多摩川小学校〉

前半は教員による実践内容の発表、後半は各学年に分かれ「ウェルビーイング」に関し意見交換を実施。お招きした講師から「先生も楽しくやることがウェルビーイングな学校づくりにつながる」と講評があり、参加者全員で再認識した。

○昨年度からの深化・発展

実践内容に対する参加者との意見交流をより深く実施、その交流に対する講師からの指導・助言を全体で共有した。

〈田園調布小学校・道塚小学校〉

教員と委員が参加し、グループに分かれ熟議。熟議の後、各グループから内容の発表・質疑応答を行った。

【テーマの例】

- ・田園調布小のこども ・SNS ・改築
- ・道塚小をどんな学校にしたいか



全体での実践内容の発表



学年別意見交換



全体で意見共有

〈馬込小学校・羽田小学校〉

ランチミーティング形式で、食事をしながらグループに分かれて意見交換。和やかな雰囲気の中、学校と地域がお互いを知るきっかけとなった。

【流れ】

- ①グループで自己紹介
- ②携わっている地域活動の紹介
学校での活動の紹介
- ③各々の活動について意見交換
- ④全体で情報共有



グループでの意見交換



熟議内容を全体で共有



参加者で集合写真

拡大学運協の成果

区の事例発表でも取り上げた結果、開催予定校が増加している。

【実際に開催した学校での成果】

- ・教員と地域の距離が縮まった。
- ・学校と地域・保護者がお互いに情報共有できた。
- ・夏休み期間の日中に開催することで、より多くの教員が参加でき、働き方改革にも寄与している。
- ・学年ごとの意見交換では、授業づくりの具体的な話ができていた。協議会后に学習指導内容について具体的な相談をしている学年もあり、地域の力を教育課程に反映させることができるよい機会となった。

取組例2 こどもとともにある学校運営協議会

学校運営協議会とこどもたちがさまざまな形で関わり、こどもの思いや夢の実現、こどもとともに地域の創生を目指す。

〈おおたの未来づくり（久原小学校の例）〉

区内小学校5・6年生を対象にした大田区独自教科「おおたの未来づくり」は、児童が地域社会や人々の「ウェルビーイング」の実現を目指し、区の特色を生かした「ものづくり」や「地域の創生」にチャレンジする学習。地域からの相談をもとに「コンセプト」を考え、「コンセプト」に向け製品設計（ものづくり）、取り組みの計画（地域の創生）である「デザイン」について検討。「デザイン」をもとに、解決策の提案や地域とともに「もの」や「取り組み」を社会に発信する「クリエイション」に挑戦する。

【授業の例】

- ①地域から依頼を受け、課題を設定
- ②課題解決に向け検討・プレゼン
- ③アクション（イベント・挨拶活動）



学校運営協議会委員の前で
プレゼンするこどもたち



地域の方の話から課題を考え
イベント運営・挨拶活動実践



〈雪中祭り（雪谷中学校）〉

雪谷中学校学校運営協議会の目標「生徒のアイデアを形にする」につながる活動として、生徒たちは何をしたいと思っているのか、中学生の意見を聞くため、生徒会役員と学校運営協議会で企画会議を実施。その結果、「雪中祭り」を実施することを決定。

【実施まで】

- ・生徒から実行委員を募集
- ・実行委員会（6回程度）
- ・準備作業（実施日前5日間）

○教員

生徒への周知、学校施設の使用協力、部活動の日程調整など
会議には原則出席しない。

○学校運営協議会

会議に参加、情報共有

成果↓

生徒の主体的活動による達成感



企画会議の様子



ブースの1つ
「スーパーボールすくい」

今後の展望

- 大田区では令和4年度からコミュニティ・スクールを順次導入し、令和7年9月1日現在で50校（57%）が導入済みである。令和8年度までに小中87校全校に導入予定であり、教育地域力推進コーディネーターが、導入1年目の学校で協議会運営のサポート、2年目以降の学校も実情に応じて伴走支援を行っていく。
- 例示の「拡大学校運営協議会」や「こどもとともにある学校運営協議会」などを活用して、協議会委員以外の方が学校運営に関われる場を自主的に設定できるようにするなど、協議会の自立を促していく。
そして、「地域とともにある学校づくり」・「学校を核とした地域づくり」を推進していく。